

建国記念の日

奉祝パレードに参加して

2月11日の建国記念の日を祝い、あるかぼーと親水広場から海峡ゆめ広場まで、奉祝市民パレードが行われ、市民のひとりとして参加しました。パレードは、下関市連合自治会、連合婦人会などで行う実行委員会主催で、あるかぼーと親水広場、上新地町の厳島神社、彦島江の浦町の彦島公園の三か所から午後1時に出発し、海峡ゆめ広場までを進行します。

令和2年以來3年ぶりの祝賀パレードは、風もなく、比較的暖かい絶好の日を迎え、親水広場に約200人の市民が参加し、盛大に開催されました。実行委員長はじめ下関市長の挨拶の後、パレード本体は、ボーイスカウトを先頭に、日の丸の旗や小旗を持った参加者は約2キロ先の目的地である海峡ゆめ広場までを楽しく元氣よく歩きました。いつもならブラスバンドの生の演奏を聴きながら、足取りも軽く行進しますが、先導車から流れる音楽に合わせ、途中の風景とか様々な様子を楽しみながら、思い思いに進みました。

同日午後2時から下関市民会館では、奉祝市民大会が開催され、イリハム・マハムティ氏（日本ウイグル協会初代会長）の記念講演がありました。このような一般市民対象のパレードに参加して、普段歩く機会の少ない人々には、健康の維持増進に役立ちますし、日本という国の成り立ちなどを、親子で語り合う日として過ごすこともいいことではないでしょうか。

パレード梯团长 内山 和章



奉祝記念講演

演題 「建国記念の日に考える国家の危機」
— 21世紀のジェノサイド
ウイグルの現状 —



講師
イリハム マハムティ

日本ウイグル協会: <https://uyghur-j.org/japan/>



奉祝記念講演を聞いて

令和5年2月11日、下関市民会館大ホールに於きまして「建国記念の日奉祝市民大会」が開催されました。この度の奉祝記念講演は、私たち日本人が世界で今何が起きているのかを学ぶ貴重な時間になったのではないのでしょうか。講師はイリハム・マハムティ氏。現在は日本ウイグル協会名誉会長、アジア自由民主連帯協議会副会長、ウイグル文化センター理事長といった重責を担いつつ、祖国ウイグルを一日でも早く復国する為に「力を尽くす事を使命」との思いで、精力的に活動をしています。氏や家族は日本国籍を取得して帰化しています。

一昨年に上新地町にあります桜山神社の桜山会館で、パネル展を開催した御縁で、今に至るまでお付き合いが続いております。普段の氏は冗談が好きで、周りにいる者を笑顔にさせてくれますが、祖国ウイグルの話になると、悲しくも厳しい目になるのが印象的です。この度の講演のタイトルは「建国記念の日に考える国家の危機」と題して、氏の祖国ウイグルの現状と、日本人が置かれている立場についてお話をいただきました。

テレビや新聞、雑誌で時折目にするウイグルという国を皆さんはご存知ですか？正式には東トルキスタンと言いますが、世間一般的には「新疆ウイグル自治区」と言われています。21世紀の現代に於いて数十万人、数百万人の方々が、中国政府による虐待、虐殺が現在進行形で行われています。民族弾圧です。氏は祖国に戻れば即逮捕され、刑務所に入れられてしまうので、親や兄弟、親戚、友人に簡単に会うことができません。下関の皆さんにもウイグルの現状を知っていただきたいの思いで来ていただいた次第です。24時間大音量で音楽が流され、ゆっくり寝ることも自由にできない環境。女性は強制的に不妊手術をされ、自由に子供を産むことも許されない現状。私たち日本人には理解できないことが現在進行形で行われています。

アメリカやイギリスの司法の場でも強く非難されています。

これですが、中国は認めようとしていません。このような深刻な人権侵害の「事実」を知ってほしいという思いで、イリハム氏は会場にいる皆さんに、時には厳しい言葉で訴え掛けました。私たち日本人も、他の国のことは知らないが無関心になるのではなく、目を向け、理解を示すのが大事ではないでしょうか？詳しくはインターネットで検索していただければと思います。



林 吾郎